

令和7年度 第2回静岡市手話施策推進研究会

日 時 令和7年9月12日（金） 午前10時から正午まで

場 所 静岡市役所本館44会議室

出席者 大村圭男委員、大川香織委員、加藤伸一郎委員、
（委員） 小泉秀力委員、二神麗子委員

（事務局） 寺田障害福祉企画課長、
繁田障害福祉企画課地域生活支援係長、
亀川障害福祉企画課主査、
中村障害福祉企画課主事

欠席者 なし

情報共有 （1）令和7年度の取組について

意見交換 （1）令和12年度までに目指す状態について
（2）今後の手話施策案について

研究会内容

情報共有（1） 令和7年度の取組について

【事務局から説明】

（大村委員）

広報にサークル紹介が載った効果として、サークルに来る人や見学者が増えた。

（加藤委員）

市の方に、何かしら声は届いているか。

（繁田障害福祉企画課地域生活支援係長）

手話を学びたいという方からの問い合わせがあり、手話サークルを紹介した。

（寺田障害福祉企画課長）

手話は福祉の啓発をする際にフックになると思っている。職員の自主勉強会が今回条例制定をきっかけに実施される予定である。

(二神委員)

動画はどこで流すのか決まっているのか。

(中村障害福祉企画課主事)

ホームタウンチームのホームゲームでの放映を予定している。

(小泉委員)

市のHPにはいつアップされるのか。

(中村障害福祉企画課主事)

9月23日あたりを目指そうと思っている。準備が出来次第公開する予定。

(寺田障害福祉企画課長)

他にも良い活用方法があれば御意見いただきたいが。

(小泉委員)

広報静岡にQRコードを載せて、というのはどうか。

(加藤委員)

区役所の待合室にビジョンがある。あのビジョンで放映することは可能か。

(中村障害福祉企画課主事)

可能。他にも市内商業施設等でも放映出来る箇所がある。放映場所は今後も検討したいと考えている。

(小泉委員)

コジマのマルシェでも放映すると言っていたがどうなったか。ろうあ協会でも情報を発信したい。イベントのチラシデータがあれば欲しい。

(亀川障害福祉企画課主査)

予定通りイベントを実施し、放映する。イベントのチラシも共有する。

意見交換(1) 令和12年度までに目指す状態について

【資料１により事務局から、各施分野の施策について将来的に目指す姿の説明】

質問及び意見なし

意見交換（２） 今後の手話施策案について

【資料２により事務局から、来年度実施しようと考えている取組について説明】

（加藤委員）

全国手話通訳問題会と全日本ろうあ連盟の共催でサマーフォーラムを開催している。以前は夏は講座形式、冬は討論形式で実施していたが、近年は一本化した形となっている。

そのため、講師を招いて講座を聞くスタイルと討議をするスタイルの両方を開催している。

日にちと場所は、8月28～30日、東静岡のグランシップをメイン会場とする。

（中村障害福祉企画課主事）

全国から1000人規模で関係者が集まると聞いている。どのような企画をしたらいいか。

（大川委員）

本当にたくさんの方が来る。ホテルの方向けの手話講座を実施する等、学習動画を作成して、商店街や駅関係者に見ていただく等もあれば良い。

（加藤委員）

静岡県の手話通訳問題研究会と、聴覚障害者協会。県でも何かしら実施すると聞いている。県と調整を取りながら、実施事業がバッティングしないように検討して欲しい。

（大川委員）

県が関わっているということは聞いている。聴覚障害者協会から予算補助のお願いをするのか。

（加藤委員）

何かしらお願いをしていくつもり。

（二神委員）

障害福祉企画課の中だけでなく、商業関連部署とコラボして進める等、他分野からの理

解を進めるということが出来ると思う。

(小泉委員)

観光案内は県全域のものになるのかと思う。県のイベントについては、どこまで動いているのかはまだ耳に入っていない。

(大村委員)

2泊3日でイベントをやって、京都は1300人くらい来た。ろう者の方が少ないけれど、啓発には効果的だと思う。

(加藤委員)

県の方でも何かしらイベントを実施すると思う。県と密に連絡を取りながら実施内容を検討したい。

(小泉委員)

特別な事業を行う場合には独自に予算を取れるか。

その3日間で手話への理解があったよというような地域にしていくようにするためにはどういったものが良いのか。

(二神委員)

資料1の第7条の普及啓発事業という形で飲食店のスタッフ向けに「ありがとうございました」と、目を見て挨拶をするということに焦点を当て、ろう者と実際にお会いする機会を作るのも良い。

手話を学んでどうなる？が一般の生活だと結びつきづらいので、手話に関しては、使わなくて忘れてしまったということが多いのが課題になりがちであるが、フォーラムがあるので使える機会になる。

遠隔手話通訳のQRコードをどこに置けるかによるが、通訳を介すと便利だと感じていただくのも良い。

サマーフォーラムに参加された方にも手話で会話したらステッカーもらえるとか。

パンフレットを作ってもしまわれてしまうので、ポスターの方が効果的だと思う。

ありがとうの手話だけでも、ポスターを飲食店に置いてもらう等、次にろう者が来た時に繋がるような、ろう者とお店の人とのコミュニケーションに繋がるようなものがあればと思う。

(小泉委員)

いい方法だと思う。遠隔手話についてだが、効果はあったと思う。ホテル等にQRコー

ドを置いてもらうことは可能か。全国からろう者が来る。毎回筆談を行っているが、フロントで手話ができればと思う。

あとは、ホテルのテレビには字幕が付かない。字幕が付けられるようなテレビにして欲しいと周知してほしい。また、字幕付きのテレビの有無の情報があれば良い。

(二神委員)

商工会議所にも声かけて、3日間だけでもQRコードを撒くとかできれば良い。

(大川委員)

遠隔手話は一般の方は煩雑な手続きというイメージがあるかもしれない。先程意見が出たように、ポスターを貼って、QRコードを載せて、手話動画が出てくるようにすれば良いとも思う。どれだけ町の方々が面倒がらずに受け入れてくれるかに気を付けてみたら良いと思う。

(二神委員)

明石市に見学に行った時に、明石市は手話条例とコミュニケーション条例の2本立てだが、筆談用のボードを配布したと。スロープの助成金を出した話も聞いた。

広報誌に店主の人の声やスロープ導入、筆談支援の感想を入れてみたら、凄く前向きに捉えてくれるようになったらしい。どんどん障害者が来る店になった、と。

(大村委員)

ホテルを探すときに、手話ができる職員がいる情報が予め分かると安心するところはある。

ポスターについては、長期的に貼ってもらえるようなものが良いよね。

(小泉委員)

同じだと飽きてしまうから。

(寺田障害福祉企画課長)

条例制定時のパブコメの中で、静岡にもともとあるものと連動させて、という声があった。ポスターも地域と繋がっていると、地域に貢献していると感じられるものがあると良いなと思っている。

手話以外にも静岡市に繋がりがあがり、ろう者に限らずにキャラクター等でメッセージ性のあるものを活用したい。

(二神委員)

ぐんまちゃんが手話をやっていたのがあった。

(加藤委員)

ポスターならさくらももこが良いな。

(小泉委員)

ドリプラがあるが、まるちゃんのシールや何か頂いて、ドリプラの案内状にそういうイベントがあると紹介していただくとか。

(二神委員)

明石市の事例だが、筆談のパットやメニュー表を文字化してもらったことで、スタバでろう者がこんなことまで店員と会話出来るということを初めて知ったということがあった。

ホテルにQRコードを置くからそのホテルを選ぶというのは難しいと思うが、スタッフとのコミュニケーションにおいて、筆談だったら面倒で聞かないことが、手話だとなついでに聞けることは、安心感に繋がり、ホテルのホスピタリティを高めるということに関連すると思う。

(小泉委員)

ネットで調べてホテル予約をする際、通訳のQRコードがありますということが分かれば選ぶ可能性が高い。

ホテルの基本情報の中で、「手話によるコミュニケーションができる」とつけると差別化できると思う。サマーフォーラムの時には斡旋するホテルがある？

(加藤委員)

いくつか旅行会社に頼むが、個人で予約する場合も多い。

ホテルで遠隔手話サービスを進めていくことやテレビの字幕があることを公表していくことが、差別化に繋がるという意識がそもそも無い段階だと思う。そのあたりが集客に有益な情報であるということを伝えていくことも必要だと思う。

(大川委員)

京都や鹿児島に聞いてみると良いかなと思う。どのような工夫をしているのか。参考にすれば。

また、来年度ブルーライトアップをやるならば一周年イベントについてはどう考えているのか。今年度実施したようにエスパルスとのコラボは続いていくのか。今年制定イベントということが無かったことから、一周年記念イベントはぜひやれたらと考えている。

(中村障害福祉企画課主事)

今年度はイレギュラーの形だったため、来年度もエスパルスとのコラボを行うならばその分の予算を確保する必要がある。

(小泉委員)

一周年イベントは開きたいと思う。富士市は、行政が担当するものと、団体が手話カフェ等を行う役割分担をしている。

「ぼくが生きている二つの世界」や手話教室や他のイベントを考え、2本立てでやりたい。午後からでもいいので午前は簡単な記念式典をして、映画上映を。手話カフェを同時に開催し、夜にブルーライトアップ、という流れで。

上映会は富士市、浜松市、焼津市で開催されていて、ゲストで監督、脚本家を呼んでいるところもある。

(寺田障害福祉企画課長)

9月23日の手話の日あたりのイベントとして考えている？

(大川委員)

映画上映は配給会社によると、1000人以上集客しなければならない制限があった。だから行政がやっていると思う。

内容はとにかく1周年イベントということが出来たらいいなと思っている。

(寺田障害福祉企画課長)

8月下旬にサマーフォーラムがあり、ろう者が身近にいるのだと感じられる機会は大事だと思う。その点でもサマーフォーラム優先で考える方が現実的だと思っている。直接顔を合わせる機会の優先順位を下げてしまうのはもったいない。

(二神委員)

遠隔プラスは今年度末まで無料で使えると聞いているが今現在の利用状況はどのくらいか。

(中村障害福祉企画課主事)

登録者数は8月末で27人、利用状況については提示のとおり。通訳者を派遣するに足りない短いコミュニケーションや、職場での利用も見られる。

(寺田障害福祉企画課長)

どのように評価するかというのが難しいと考えている。この利用状況を多いと見るか少ないと見るか。手話を使いたいときに使えるようになったのが評価しづらい。どのように評価していったら良いか。

市が負担しているから利用しているのか。市が負担を辞めたらそもそも登録を辞めるのか、こういった数字を見ながら判断をしていかなければならない。

(大村委員)

ろう者からの話をきくと遠隔手話サービスを使うとパケット代がかかるから辞めたいという声を聞く。Wi-Fiが繋がる場所だと良いが、そうでないと大変。

(小泉委員)

聞いている話だと、月5000円、1回500円が自費だとかかる。そのためせっかく契約したのに辞めるかもしれないという話は出ている。

通信料の補助みたいな話だが、日常生活用具としてFAXはもらえているが、遠隔手話の通信料補助があれば良いと思う。

(大川委員)

通訳に言った際にろう者から聞いた話だと、技術的には概ね良好で便利である。ただ、それは若い世代限定で、高齢者は使えない。

(加藤委員)

社会インフラの一つとして考えた方がよいと思う。件数として同一人物がどの程度使っているのかとか、利用がある程度あれば継続となるのだと思うが。

利用料を行政が全て負担して、というのはおかしいと思うが、どの程度行政が負担していくかは論議が必要だと思う。

(亀川障害福祉企画課主査)

利用料の助成をなぜ1年しているのか、というと、遠隔プラスを街中でろう者に使ってもらって、聞こえる人に手話はコミュニケーションの手段であると知ってもらう目的があった。

(二神委員)

登録者数は順調に増えていると思う。2000箇所QRコードを置いて、月1件というところもあると聞いている。個人がいつでも手話通訳をスマホに持っていく方が使いやすいと知ってもらおうと今後も利用の増加につながる。

日常生活用具の一環として一部補助も検討可能ではないかと思う。

電話リレーサービスの調査研究の際に、知っている人に通訳してもらいたいというろう者がいる一方、知らない人に通訳してもらいたい人もいる。

図書館や旅行等、通訳を派遣しない日常生活での利用が増えると思う。

当たり前には享受できるはずの情報がアクセスできることを知っていくという状況にこれからなるんだろうなと思う。もう1年くらい市が利用料を負担する期限を延ばしてもいいんじゃないかなと思う。

(大川委員)

サービス開始時に説明会をやって、それで終わりではなくて、今後もアピールをしていくということが大事だと思う。改めて使い方を教えていくということが大事。

(寺田障害福祉企画課長)

設置箇所数も増えており、体育館への設置も完了した。今後学校にも設置していく予定。設置箇所はHPに載っている。

(小泉委員)

エコパークにも置いてほしい。

(中村障害福祉企画課主事)

そういった声を都度いただければ設置の調整をしていく。

(大川委員)

HPに載せてもらっているなら、ろうあ協会も会員に発信をしたいと思う。

(小泉委員)

遠隔手話サービスについて報道投げ込みをするのか。手話の日の一茶でのイベントで実演すれば効果的と思うが。

(二神委員)

新潟の防災国体でプラスヴォイスが出ていた。通訳者をどうしても呼べないところや緊急時に活用することで安心安全なまちづくりに繋がる。